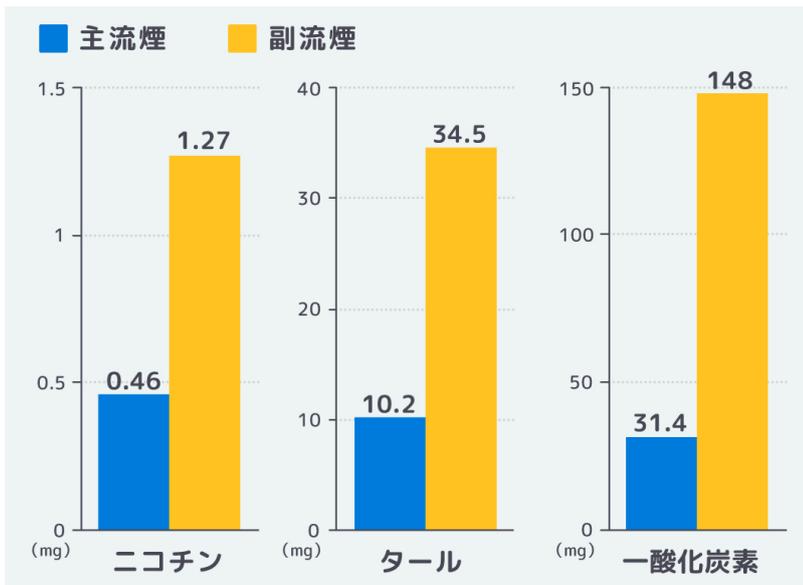


タバコの煙の分類



IHI グループ健康保健組合 HP から



日本調剤 HP から

タバコの煙は空気中を漂い、あたり一面に広がります。例えば、喫煙者が火の付いたタバコを手にして子どもと話している光景を想像してみてください。

このとき、子どもは喫煙者のはく息に含まれるタバコの煙(呼出煙)をまともに吸い込みます。さらに手にしたタバコの先からも煙(副流煙)がでていて、この煙の成分も吸い込まれるのです。これこそが、他人のタバコを吸わされてしまう“受動喫煙”です。

そして、左のグラフを見てください。じつは、喫煙者本人が吸い込む煙(主流煙)に比べ、吸っていない時に先端からでる副流煙の方がはるかに有害成分の濃度が高いのです。副流煙は、くすぶっている状態なので、より“煙たい”わけです。

と言うわけで、受動喫煙をうけるとそのダメージは意外に大きいのです。左の表にあるように、喫煙者と同じように脳卒中や肺がんになるリスクが高くなる事がわかっている、受動喫煙が原因と考えられる死者が年間1万5千人もいるとされています。

タバコを吸うのは自分だけの問題ではありません。他人への影響があることを忘れてはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久

**受動喫煙による「病気になるリスク」**

脳卒中	肺がん	虚血性心疾患	乳幼児突然死症候群(SIDS)
<b>1.3倍</b>	<b>1.3倍</b>	<b>1.2倍</b>	<b>4.7倍</b>

※出典 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「たばこ対策の健康影響および経済影響の包括的評価に関する研究」

**年間約15,000人が亡くなっています。**

久慈市 健康予防サイトから